

論理的認識力に焦点をあてた中学校国語科教科書における説明的文章教材の分類と系統化

最終更新日：2016年4月25日

【プロジェクト代表者】
教職実践講座
准教授
青山 之典

キーワード

説明的文章, 読むこと, スパイラルカリキュラム, 論理的認識力

プロジェクトの内容 (目的・方法・結果と意義)

現在, 思考力・判断力・表現力の育成が強く求められており, その中核となる論理・論理的思考力についての研究は急速に進められています。また, それらの能力育成のためのカリキュラムのスパイラル化も強く求められていますが, その具体案はまだ示されていません。

このような論理をめぐる読む能力育成をめざすスパイラルカリキュラムを実現するには, ①読む行為を実現する基本的な能力群を明らかにすること, ②教材文の難易度を決める構造的な要因を明らかにすること, という二つの課題を克服する必要がありますが, 先行研究にはそのような提案をしたものが見られません。筆者は①について, 「論理的認識力」を提案していますが, ②についてはまだ明らかにしていません。そこで, 本プロジェクトでは, ②を明らかにすることを目標とし研究を進めました。

特に本研究では, 平成24年版中学校国語科教科書に所収の説明的文章教材をマクロの視点から分析し, 分類の観点である「論理の型」を導きだし, 「論理の型」によってどのように難易度が決まるかを考察しました。難易度を決める構造的な要因の一部が明らかになったに過ぎませんが, 今後の研究を推進する足がかりを得ることができました。

成果の応用可能性 (私たちの活動の成果は, このような分野にこのように貢献することができます。)

本研究の成果は今の時点ではまだ不十分ですが, いずれ二つの点で国語科教育研究の分野に貢献することになるでしょう。

第一には, 国語科カリキュラム編成において, 「論理的認識力」を一つの基本的な能力として設定することで, 目標・内容の配列を滑らかな系統にすることができるということです。具体的には, 下の学年の学習成果が上の学年の学習へとスムーズに活かされるとともに, 仮につまづいたときにも一つ前の学習を復習することで取り戻しやすくなることが期待できます。

第二には, 滑らかな系統を実現するように国語科教科書の説明的文章教材を配列することができるということです。これを実現するには教材の難易度を決める要因を明らかにすることが必要ですが, 現在はまだ十分に明らかになっていません。研究が進むことで, 教材の配列を進めるための確かな手がかりを得ることが期待できます。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

本研究は, JSPS科研費26381209(研究代表者 難波博孝, 研究協力者 青山之典, 宮本浩治, 吉川芳則, 幸坂健太郎)の助成および平成27年度福岡教育大学学長裁量経費プロジェクトによる助成を受けた研究の一部です。

プロジェクト構成員 (所属・職名・氏名・役割分担)

福岡教育大学・准教授・青山之典・プロジェクト代表者